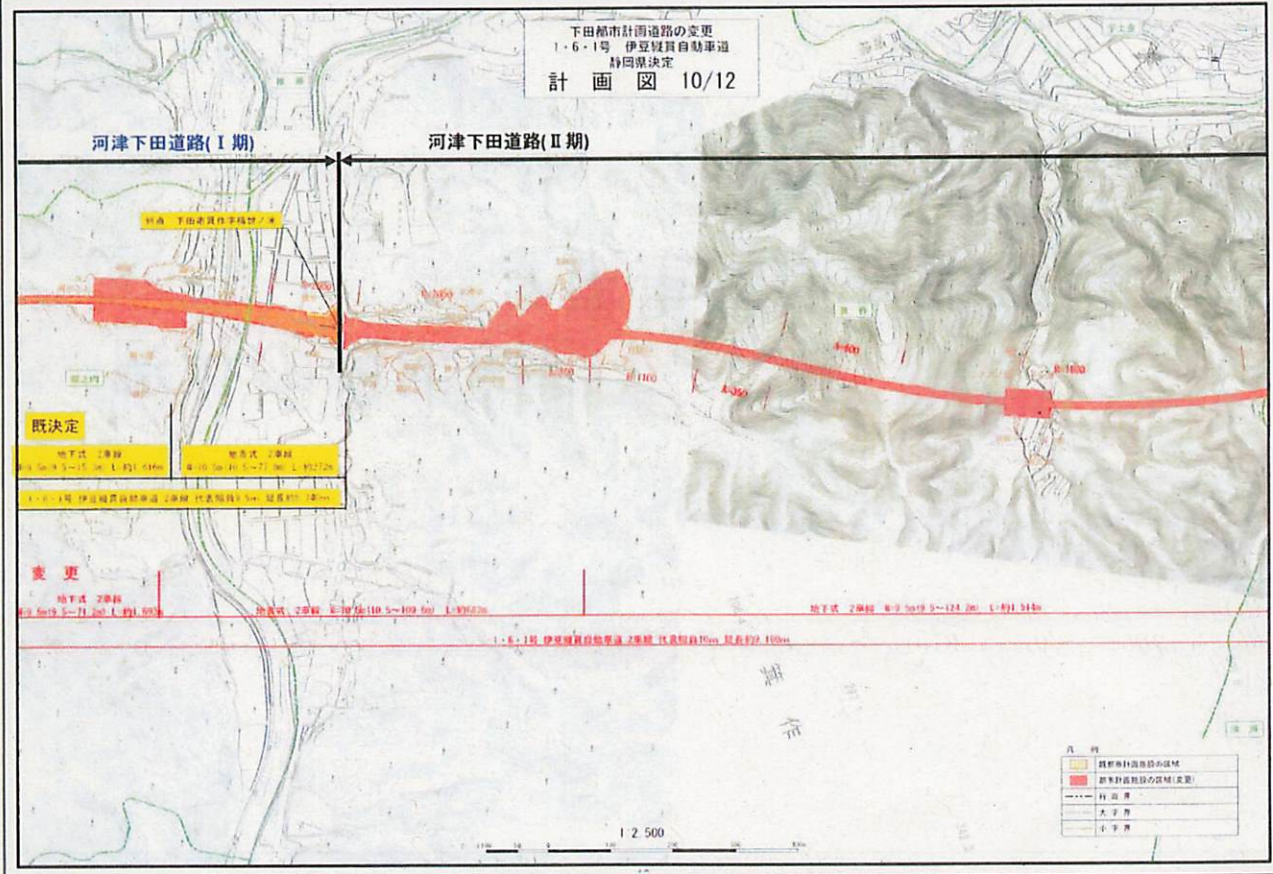


# 1. 伊豆縦貫自動車道と 稲梓地域の状況

## 伊豆縦貫自動車道の概要



# 河津下田道路Ⅰ期 - Ⅱ期



# 河津下田道路Ⅱ期

## 【これまでの手続き】

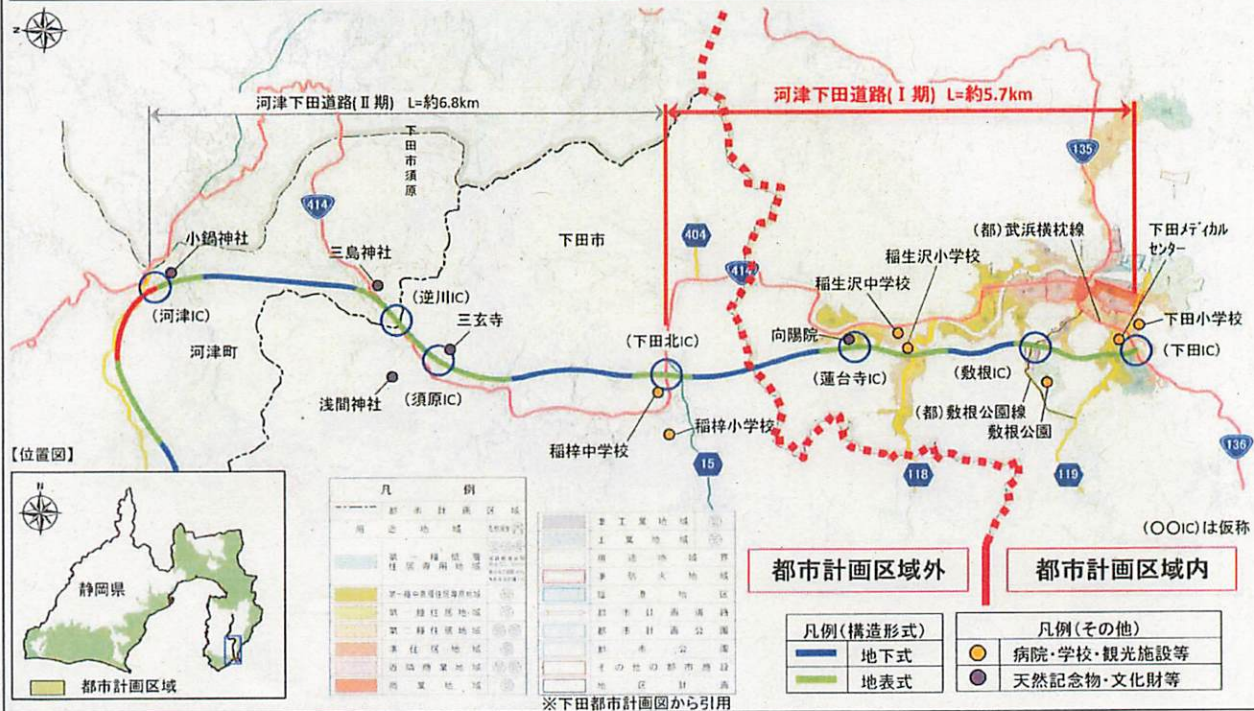
- 平成23年度 環境影響評価手続き完了
- 平成24年度 事業化
- 平成26年度 起工式(本体工事開始)
- 令和4年度 用地取得・工事等を推進



# 河津下田道路 I 期

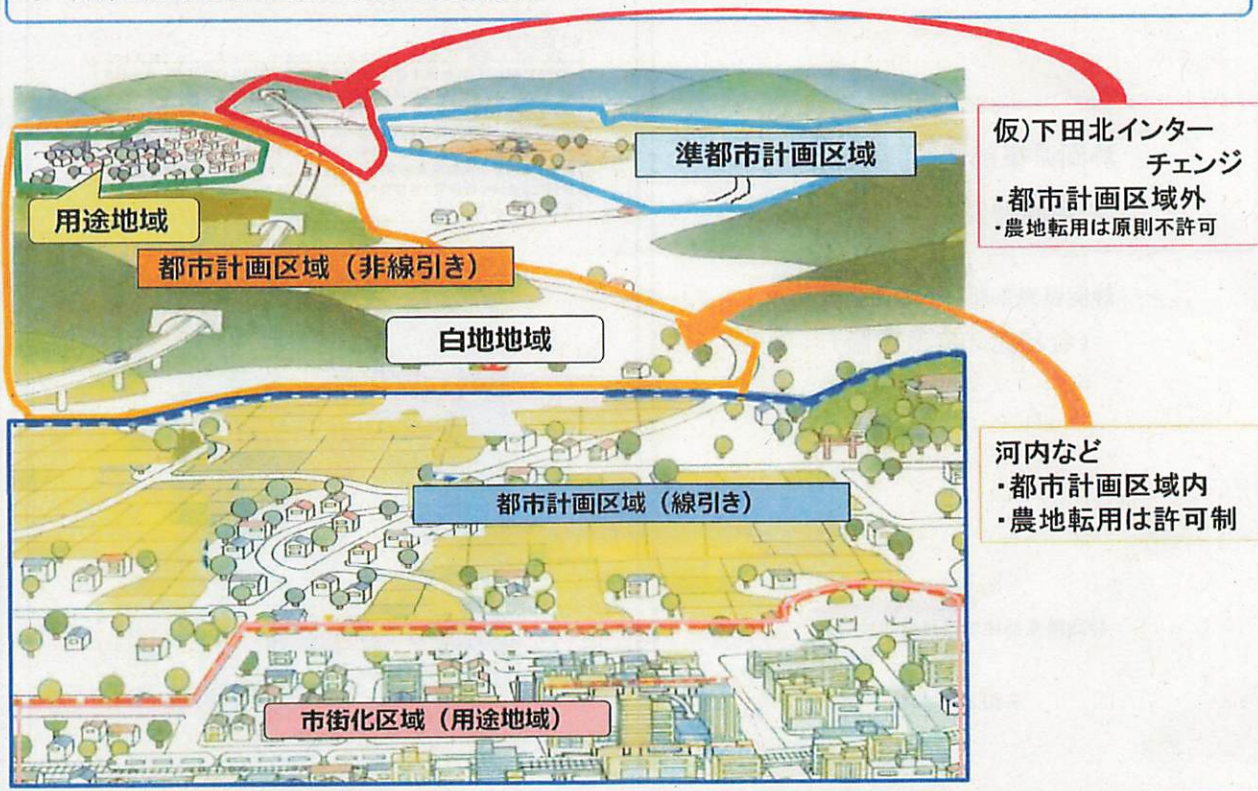
## 【これまでの手続き】

- 平成10年度 事業化
- 平成26年度 都市計画決定（道路幅のみ）、環境影響評価手続き完了
- 令和 4年度 調査設計・用地取得等を推進、本体工事開始予定



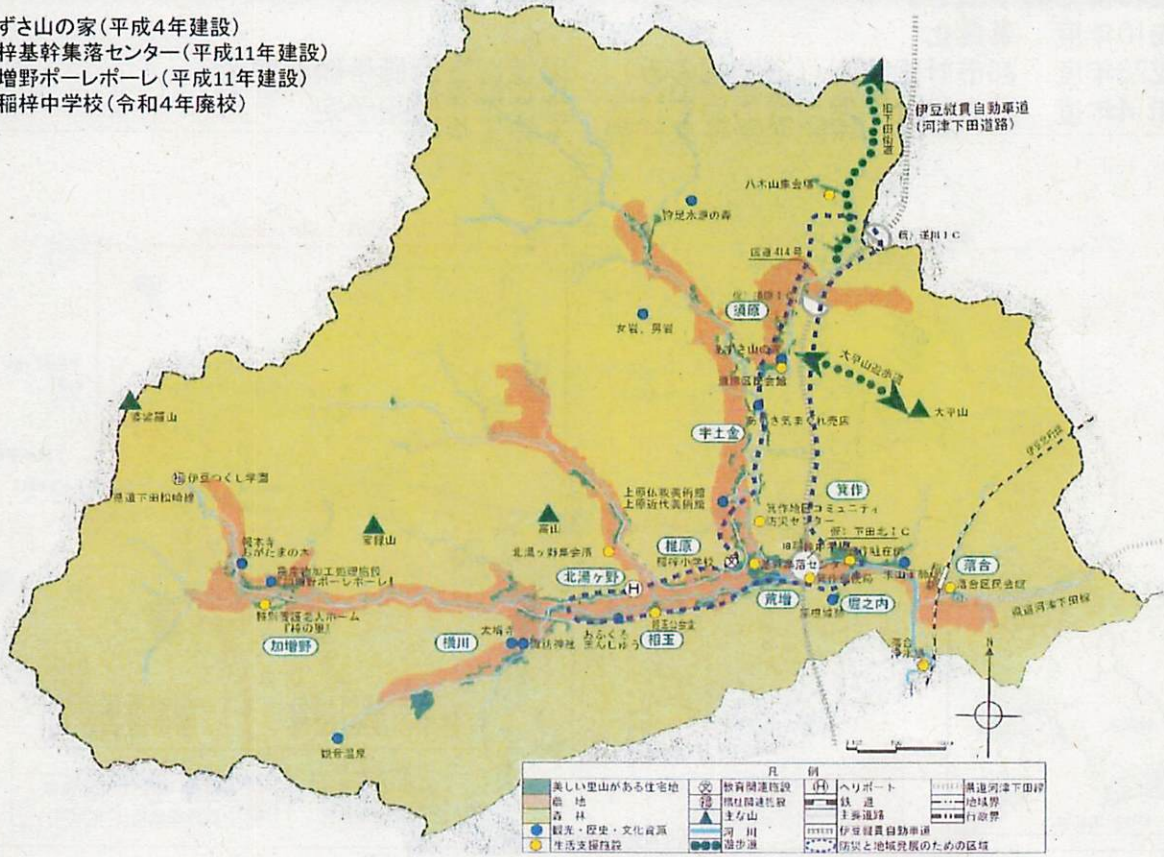
## 下田都市計画と開発制度の違い

- 計画的な市街化と保全を図るため、都市計画区域内と都市計画区域外に区分
- 都市計画区域外においては、保全が原則



# 稲梓地域の土地利用と施設配置状況

- ・あずさ山の家(平成4年建設)
- ・稲梓基幹集落センター(平成11年建設)
- ・加増野ポーレポーレ(平成11年建設)
- ・旧稲梓中学校(令和4年廃校)



# 稲梓地域を中心とした防災拠点整備

## 静岡県東部地域における 道路啓開基本方針

～ 静岡県東部版「くしの歯作戦」～  
(令和元年度改定版)

静岡県東部地域道路啓開検討会

令和2年3月

### 6.2 防災拠点の整備

道路啓開や救命・救援活動、その後の災害復旧において、人員、資機材を展開するため、防災拠点が重要である。東日本大震災では、道の駅やSA・PAが防災拠点として活用された。特に伊豆半島は、平野部が少なく防災拠点にふさわしい施設が限定されるとともに、道路啓開の実施においても、道路災害への緊急復旧が求められる等、新たな防災拠点の役割は大きい。このため、道の駅の防災拠点化を進めるとともに、伊豆縦貫自動車道の整備の進展にあわせ、西伊豆、東伊豆への主要な分岐点等に新たに防災拠点を整備する必要がある。



## 2 「防災道の駅」とは

- ## 2. 「防災道の駅」とは
- ①防災道の駅制度と活用事例

## 「道の駅」の目的と機能

### 「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興や安全の確保に寄与

### 「道の駅」の機能

- 休憩機能**
  - ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
- 情報発信機能**
  - ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
- 地域連携機能**
  - ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設や防災施設(感染症対策を含む)

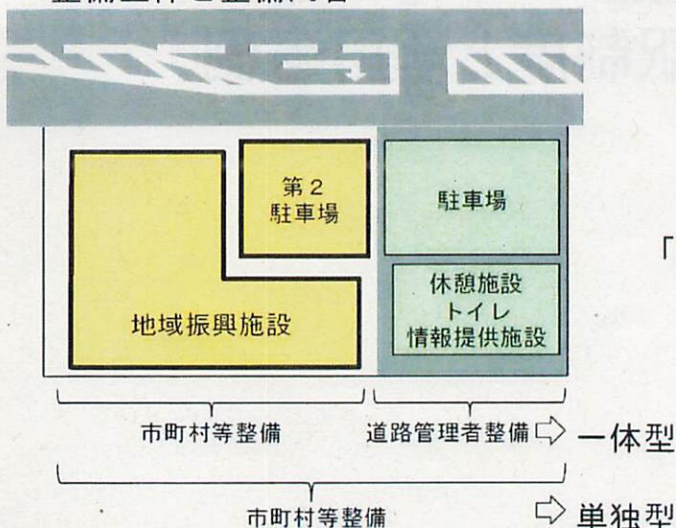
### 「道の駅」の基本コンセプト



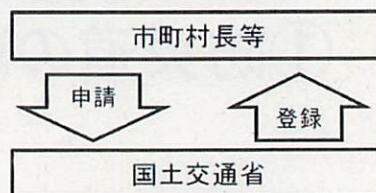
## 「道の駅」の設置者、登録方法

- 「道の駅」は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置
- 登録は、市町村長からの登録申請により、国土交通省で登録
- 整備の方法は、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類

### 整備主体と整備内容



### 「道の駅」の登録手続き



### 「道の駅」の登録数

令和3年6月11日時点

「道の駅」総数1,193駅

うち一体型：653駅(55%)

うち単独型：540駅(45%)

# 「道の駅」第3ステージについて

## 第1ステージ(1993年～)

『通過する道路利用者のサービス提供の場』

- 道路利用者が安心して休憩できる場を提供



## 第2ステージ(2013年～)

『道の駅自体が目的地』

- 地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展



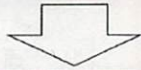
<観光客や家族が楽しめる空間の提供>  
※道の駅「川場田園プラザ」



<加工場の併設により地域雇用の創出>  
※道の駅「川場田園プラザ」



<防災セミナーの開催>  
※道の駅「もてぎ」

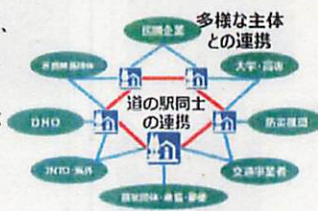


## 第3ステージ(2020年～2025年)

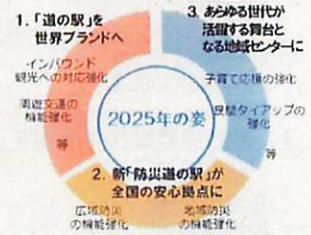
『地方創生・観光を加速する拠点』

- 各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速
- 「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献

### 新たな「道の駅」ネットワーク



### 第3ステージの概要



# 「道の駅」第3ステージの目指す姿

新「道の駅」のあり方検討会 提言  
令和元年11月18日

## 第3ステージ(2020年～2025年) 《地方創生・観光を加速する拠点》

### 「2025年」に目指す3つの姿

#### 1. 道の駅を世界ブランドへ (ニューノーマル対応)

<主な取組み>

- キャッシュレスの導入やECの推進
- 外国人観光案内所の認定取得
- 風景街道等と連携した観光周遊ルートの設定
- 観光MaaS(アプリで交通と観光施設を案内)



#### 2. 新「防災道の駅」が 全国の安心拠点に

<主な取組み>

- 広域的な防災拠点となる「防災道の駅」制度の導入と重点支援
- 地域防災力の強化のためのBCP策定や防災訓練等の実施



#### 3. あらゆる世代が活躍する 舞台となる地域センターに

<主な取組み>

- 道の駅ニーズと民間シーズのマッチングによる地域の課題解決
- 子育て応援施設の併設
- 自動運転サービスのターミナル
- 大学等との連携によるインターンシップや実習(商品開発等)



## 「防災道の駅」について

新「道の駅」のあり方検討会 提言  
(令和元年11月18日)

「道の駅」第3ステージ  
(2020年~2025年)  
《地方創生・観光を加速する拠点》



「2025年」に目指す3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

- 多言語対応やキャッシュレスの導入
- 海外や観光関係団体との連携



2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点到

- 広域防災  
「防災道の駅」の選定・支援
- 地域防災  
BCPの策定を促進



3. あらゆる世代が活躍する舞台となる  
地域センターに

- 子育て応援
- 地域活性化プロジェクト
- 大学等の連携企画の実施



### 「防災道の駅」制度

都道府県の地域防災計画等で、**広域的な防災拠点**に位置づけられている道の駅について、「**防災道の駅**」として選定し、防災拠点としての役割を果たすための**重点的な支援**を実施

広域的な防災拠点機能を持つ道の駅

- ・自衛隊、警察、消防、レスキュー隊等の救急活動の拠点
- ・緊急物資等の基地機能
- ・復旧・復興活動の拠点等

地域の防災拠点機能を持つ道の駅

- ・地域の一時避難所等

その他の道の駅

全体1,187駅 (令和3.3.31時点)

### 重点的な支援

(最大5年)

ハード面

- ・防災機能の整備・強化を交付金で重点支援

ソフト面

- ・BCPの策定や防災訓練について国のノウハウを活用した支援



広域的な防災拠点 (イメージ)

## 「防災道の駅」の選定要件について

1. **都道府県**が策定する**広域的な防災計画** (地域防災計画もしくは**受援計画**) 及び**新広域道路交通計画** (国交省と都道府県で策定中) に広域的な防災拠点として位置づけられていること

※ ハザードエリアに存する場合は、適切な対応が講じられていること

2. 災害時に求められる**機能**に応じて、以下に示す**施設、体制**が**整っていること**

- ① **建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保等**により、災害時においても業務実施可能な施設となっていること
- ② 災害時の支援活動に必要なスペースとして、**2500m<sup>2</sup>以上の駐車場**を備えていること
- ③ 道の駅の設置者である市町村と道路管理者の役割分担等が定まった**BCP (業務継続計画)**が策定されていること

3. 2. が整っていない場合については、**今後3年程度で必要な機能、施設、体制を整えるための具体的な計画**があること



## 「防災道の駅」の選定箇所

No.	都道府県	市町村	道の駅名	No.	都道府県	市町村	道の駅名	No.	都道府県	市町村	道の駅名
1	北海道	天塩町	てしお	14	長野県	塩尻市	小坂田公園	27	岡山県	玉野市	みやま公園
2	北海道	ニセコ町	ニセコビュー プラザ	15	山梨県	富士川町	富士川	28	広島県	東広島市	西条のん太 の酒蔵
3	北海道	猿払村	さるふつ 公園	16	新潟県	妙高市	あらい	29	山口県	周南市	ソレーネ 周南
4	北海道	厚岸町	厚岸グルメ パーク	17	石川県	輪島市	のと里山 空港	30	徳島県	板野町	いたの
5	青森県	七戸町	しちのへ	18	岐阜県	大野町	バレットピア おおの	31	香川県	綾川町	滝宮
6	岩手県	遠野市	遠野風の丘	19	静岡県	富士宮市	朝霧高原	32	愛媛県	久万高原町	天空の郷 さんさん
7	秋田県	大仙市	協和	20	愛知県	豊橋市	とよはし	33	高知県	四万十町	あぐり窪川
8	山形県	飯豊町	いいで	21	三重県	志摩市	伊勢志摩	34	福岡県	うきは市	うきは
9	福島県	猪苗代町	猪苗代	22	福井県	大野市	越前おおの 荒島の郷	35	長崎県	佐世保市	させぼつくす 99
10	茨城県	大子町	奥久慈 だいち	23	滋賀県	甲良町	せせらぎの 里こうら	36	熊本県	芦北町	たのうら
11	栃木県	壬生町	みぶ	24	兵庫県	朝来市	但馬の まほろば	37	大分県	由布市	ゆふいん
12	群馬県	川場村	川場田園 プラザ	25	奈良県	奈良市	(仮称) 中町	38	宮崎県	都城市	都城
13	千葉県	八千代市	やちよ	26	和歌山県	すさみ町	すさみ	39	鹿児島県	垂水市	たるみず はまびら

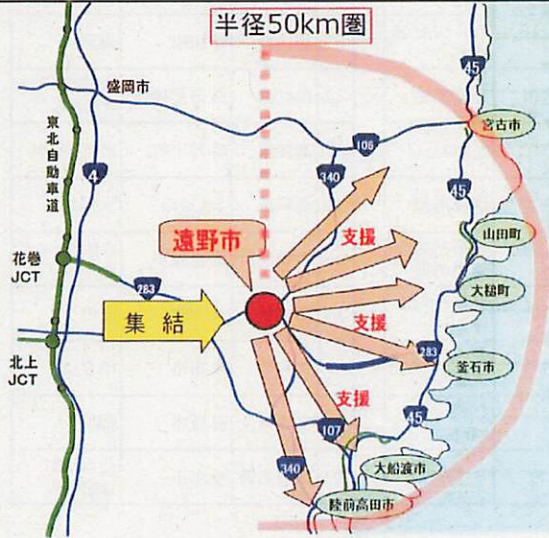
## 近年の自然災害と「道の駅」の防災機能が活用された事例

災害	災害時に活用された道の駅	防災機能の例
平成16年 新潟県中越地震	クロス10十日町 (新潟県十日町市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時避難所、炊き出し等</li> <li>支援物資の集配基地、災害復旧車両の中継基地</li> </ul>
平成23年 東日本大震災	遠野風の丘 (岩手県遠野市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所、支援物資の後方支援拠点</li> <li>自衛隊、警察、消防、医療関係団体、ボランティア等の集結地</li> </ul>
平成28年 熊本地震	あそ望の郷くぎの (熊本県南阿蘇村) 阿蘇 (熊本県阿蘇市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時避難所、炊き出し等</li> <li>自衛隊の被災地救援の前線基地</li> <li>災害派遣車両の基地、通信会社の移動基地局</li> </ul>
令和2年7月豪雨	飛騨街道なぎさ (岐阜県高山市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路復旧活動の資機材保管場所</li> </ul>
平成25年3月豪雪	メルヘンの丘めまんべつ (北海道大空町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>除雪車等の拠点基地、立ち往生車両の待避所</li> </ul>

## 東日本大震災における「道の駅」の活用事例

### ■道の駅「遠野風の丘」（岩手県遠野市）

- 沿岸各市町への後方支援拠点（『扇の要』）として活用。全国の自治体等から集められた支援物資の沿岸被災地への搬送等を実施。
- 駐車場は、避難場所、自衛隊、警察、消防、医療関係団体、ボランティア等の集結地として機能。 【道路区域内及び道路区域外】



道の駅全景



復旧や救援に向かう自衛隊・消防隊やボランティアの後方支援拠点として機能

## 令和2年7月豪雨における「道の駅」の活用事例

### ■道の駅「飛騨街道なぎさ」（岐阜県高山市）

- 崩壊現場付近でのヤードが確保できるまでの2日間、道の駅を活用。
- 駐車場は、道路復旧活動の資機材保管場所として機能。 【道路区域内】



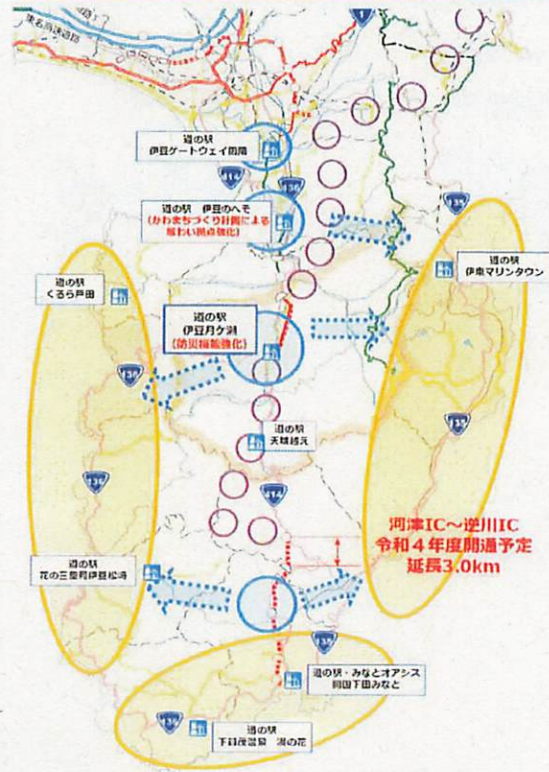
道の駅での資機材保管状況（7月11日）

#### ■被害概要、復旧工事経緯

- 令和2年7月豪雨により、7月8日に下呂市門坂地区の国道41号が約500mにわたって崩壊
- 飛騨川の水位を確認しながら7月10日に現地復旧工事を開始し、道路崩壊現場付近でヤード（借地）が確保できるまでの約2日間、道の駅「飛騨街道なぎさ」を資機材の保管場所として使用

	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14
被害発生	●						
復旧・水位確認			●				
工事着手				●			
復旧工事					●		
道の駅を活用して資機材入（2日間）				←	←		
現場付近でヤード（借地）確保						←	

# 伊豆半島を持続可能な地域とするために



伊豆半島各地の  
『観光資源』『歴史』『風土』  
そして人を…

**拠点** (道の駅/川の駅)  **ネットワーク**  
道路/河川

を組み合わせ、

**多様な交通モード**  
『早い交通』⇒ 車・鉄道  
『遅い交通』⇒ 自転車・カヌー

で繋ぎ、来訪者を **もてなす**  
そして、次世代へその精神を紡ぐ